

国際海事機関（IMO）第16回GHG中間作業部会への参加

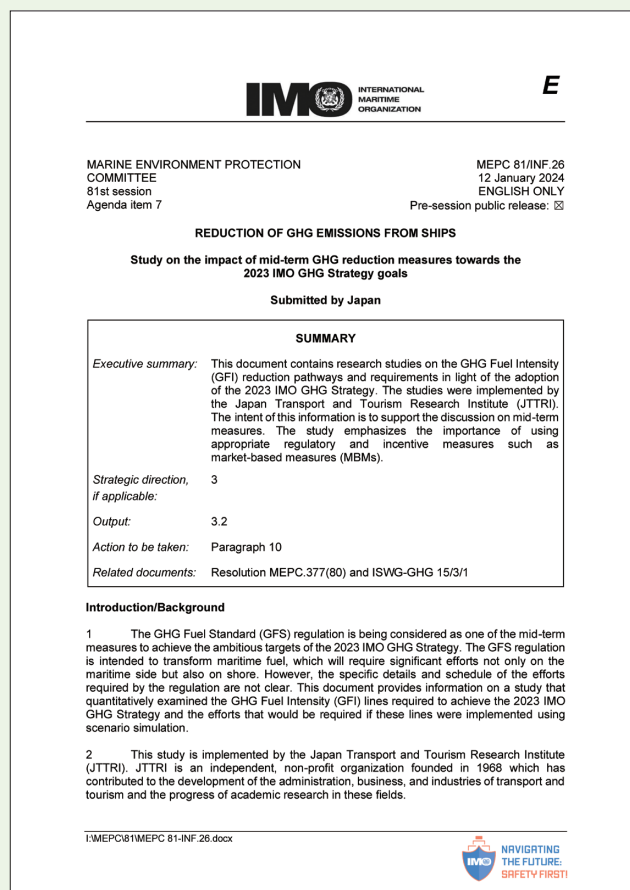
2024年3月11日～15日

2024年3月11日（月）～15日（金）に、第16回GHG中間会合（Intersessional Working Group on Reduction of Greenhouse Gas Emissions from Ships: ISWG-GHG）が国際海事機関（IMO）本部（ロンドン）にて開催され、当研究所から谷口研究員が日本代表団の一員として参加しました。

ISWG-GHGは、IMOの5つの主要な委員会の1つである海洋環境保護委員会（Marine Environment Protection Committee: MEPC）が扱う各課題のうち、船舶からの温室効果ガス（GHG）排出削減に向けた対応策に特化した作業部会です。定期的で開催されるMEPCの間に不定期で開催され、各国政府代表のほか、海事関係の国際機関がオブザーバーとして参加しています。また、一般的な作業部会と異なり多数の参加者が出席するため、MEPCなどの大きな会議でしか使用されない会議場が使用されるなど注目度の高い作業部会です。

今会合では、昨年7月に策定された2023 IMO GHG削減戦略において定められた2050年国際海運からのGHG排出ゼロの達成に向けた中長期的な措置の策定に向けた検討、船舶用燃料のライフサイクルGHG原単位に関するガイドライン（LCAガイドライン）の改訂、船上でのCO₂回収に関する検討が行われ、議論の結果が翌週開催されたMEPC81に報告されました。

当研究所で実施してきた「海運CO₂排出削減のための燃料転換に関する調査検討」の成果が日本政府を通じて情報提供文書としてMEPC81に提出され、ISWG-GHG16における中長期的な措置の策定に向けた議論のベースとすべき関連文書の1つとして紹介され、議論の一助となりました。また、会議に参加している世界各地域の研究者とのネットワーキングに努めました。



MEPC81に提出された情報提供文書の表紙
（JTTRIの研究成果であることが示されている）



会談の様子